



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：サルマン新皇太子の課題と後継者問題の再燃

湾岸地域の経済・金融・エネルギー問題専門家 中嶋 猪久生

サルマン皇太子が直面する課題とは？

宗教的にも社会的にも伝統主義者であったナエフ皇太子の死去により、アブドラ国王の改革路線の行方が、これまで以上に、注目を集めている。2011年のチュニジアから始まった中東における民衆蜂起による改革のうねりの中で、サウジも避けて通れない困難な局面に直面し、好むと好まざるとに関わらず、改革のスピード・アップが求められている。

サルマン皇太子が国王の後継者として、サウジアラビアは、改革路線の後戻りとは言わな  
いまでも、現状維持路線をとるのか、あるいは、国王と共に改革路線を進めていくのか、大  
いに注目される。今後、皇太子が取組まなければならない政策は次のようなものだろう。

国内政治・経済・社会関連

- (1) 人口・失業問題(職業訓練や福祉政策を含む)
- (2) 国内治安対策と宗教的マイノリティの解放。油田地帯でシーア派住民の多い東部州対策。
- (3) 教育改革
- (4) 法制度の近代化
- (5) 女性の人権問題
- (6) 資本市場の自由化

対外政策

- (1) サダム・フセイン後の安全保障上の最大のリスクは、核開発を進めるシーア派の大国イラン。そのイランにどう向き合うか。
- (2) エジプトのムバラク元大統領の処遇 をめぐりこじれた米国との関係修復。
- (3) 近隣諸国との外交関係：バハレーン(シーア派対策)、イエメン(アル・カイダ、国境問題)、エジプト(ナエフ皇太子が敵対的であったムスリム同胞団との関係)
- (4) サウジとバハレーンとの連合、その後のGCC(湾岸協力会議)連合問題。

石油政策

サウジアラビアの石油政策は、国王と一部の有力王族により決定され、石油相が執行する

という形をとってきたが、引き続きナイミ石油相の下で政策の実行が進められることになるだろう。イラン原油禁輸に伴い、代替供給先としての同国への依存度が高まっている中で、どの程度まで増産体制を維持し、安定供給することが可能か、というのが当面の課題である。他方、OPEC 加盟国の中で、油価の高値維持を狙うイランは、OPEC で決定された割当量に違反して増産し、原油価格を低下させているとして、増産中のサウジ、UAE、クウェートとの対立が表面化してきた。

国内の改革、対外関係、石油政策など多くの問題を抱える一方で、アブドラ・サルマン体制は高齢化と健康問題を抱えながら、次世代へのスムーズな権力移譲を行えるのか。しかも、権力移譲に長い時間をかけることは出来そうにない。ここにサウジアラビアが抱える後継者問題の難しさがある。

### アブドラ後の後継者問題

サウジアラビアの王位継承は、他の湾岸首長国とは異なり、長子相続ではない。初代国王アブドルアジズの血を受けた直系の子孫に継承される。しかも、誰でもいいというわけではなく、部族社会の伝統を色濃く残した、後継者たる資格要件が必要なのだ。行政能力や資質、母親の出自、サウード王家を構成する一族の支援、有力部族や宗教勢力からの支持も求められる。9・11 事件以降は、軍事的指導力も見直されるようになった。

サルマン皇太子が国王になった場合の後継者レースのシナリオを描いてみると次のようになるのではないかな。

シナリオ 1：実弟で内務相のアハマドを後継者とする。

シナリオ 2：前述の忠誠委員会のメンバーで実力王子たちと取引をして、各々の息子たちを取り立てる。

シナリオ 3：アブドラ国王とサルマン皇太子との妥協の結果として、誰が新たな“第二副首相”になるのか関心が寄せられている。2011 年 10 月、スルタン皇太子(第一副首相兼国防相)の死去後、第二副首相兼内相であったナエフが皇太子に就いた。サルマン皇太子は、現在、ただ一人の副首相である。

アブドラからサルマンを経て、次代の有力後継者をリスト・アップすると以下のような王子達が浮上してくるが、ここでは職歴などに触れておきたい。( )内は年齢。

#### (1) 第二世代

アブドルアジズ国王の息子達は約 40 人とされるが、アブドラ(88 歳)後、サルマン(76 歳)の在位がどの程度になるか予測し難い。サルマン王子の国王在位期間にもよるが、第二世代で国家レベルの政策を実行できる能力のある王子はアハマドとムクリンの 2 人だけになりそ

うだ。しかも、サルマン以前の王子達に比べると存在感ははるかに薄い。

- ・アハマド(72)：今回の人事で内務副大臣から内相に昇格。これまで内務省のテロ対策はナエフが息子のムハンマドと担当、アハマドは同省の日常業務を担当。ステイリ族出身でサルマンの実弟。これまで王位に就くという意欲を示したことはなかったが、内相になることにより、野心を燃やすか？
- ・ムクリン(69)：中央情報局長官、アブドラ国王に近い。但し、母親の履歴に問題があるといわれている。

## (2) 第三世代

### <第3代ファイサル国王の息子達>

- ・ハーリド(71)：メッカ州知事
- ・サウード(71)：外相(1975年以降)、アブドラ国王が皇太子時代から親密な同盟者。第3世代のリーダー的存在。

### <ステイリ系>

- ・ムハンマド(63)：第5代ファハド国王の次男。東部州知事。大企業アル・ビラード社のオーナー。ヌーラ妃はナエフの長女。
- ・ハーリド(63)：スルタン皇太子の長男。国防省副大臣。ステイリ系の第3世代では最年長。
- ・ムハンマド(53)：ナエフ皇太子の息子。内務省次官。父と共に治安・テロ対策を担当、同省の改革はムハンマドが主導してきた。叔父であるアハマド内務相にとって代わるにはすぎる。

### <アブドラ国王の息子達>

- ・ムトイブ(59)：アブドラ国王の次男、国務大臣兼国家警備隊長官